

小中一貫教育のスタート

西ノ島小中学校の開校です。以前より西ノ島町広報誌においてお伝えしていましたが、子どもたちの学校生活において、大きな変化はありません。小中一貫した教育目標のもと、小学校・中学校配置の全教職員で西ノ島町の児童・生徒の教育活動にあたります。

なお、時節柄、盛大な開校式は行わず、児童・生徒・関係者へ開校記念品を配布致します。



小中学校としての取り組み

西ノ島小中学校となり、新たな年度がスタート致します。

小中一貫校の特色を生かし、4月8日の始業式は全校児童生徒（小学校1年生、中学校1年生を除く）で行います。さらには、4月9日の入学式は小学校1年生、中学校1年生を合同で全校児童生徒、全教職員で迎えます。

なお児童・生徒の学校生活に関する詳細については、4月17日に行われるPTA総会にてお知らせいたします。

西ノ島小中学校スタートにあたり

5年前、私が教育長に就任したときに感じたのが「小中学校の壁」でした。同じ校舎で一緒に過ごしながらも、小中お互いが立入ることができない雰囲気を感じ、小中一貫を進めていこうと決めました。

先生方にとっては負担が増え、相当な反発があることは覚悟していましたが、先生方の気持ちの中には「子どもたちの成長を見届けたい」「どんな子が入学してくるのか」といった意識が強かったこともあり、両校長をはじめ、先生方の積極的な取り組みによって、この4月からスタートすることができました。

小中一貫教育の目的の柱は、西ノ島町に必要な人材（医療・福祉・教育・産業など）を育てていくことです。町民の皆様には長いスパンで見守ってもらえたら幸いです。

教育長 扇谷 就二



▲小中合同行事の様子

目的

「確かな学力」と「ふるさと愛」そして「豊かな心」を備えた

西ノ島町に必要な人材を育成する

ふるさとに誇りを持ち、未来の西ノ島の担い手となる、自立した15歳

楽しむ人、行動し学ぶ人、人と繋がる人

小中一貫した教育課程

リターンにつながるふるさと教育の推進

不登校やいじめのない学校づくり

特別支援教育の充実

小中一貫教育

小中学校全ての教職員で小中学校全ての子どもを育てる。

メリット

- 中1ギャップの解消
- 思いやりの気持ちが育つ
- 系統的な学習指導の充実

検討の結果

- 学校名は西ノ島小中学校
- 小学校6年、中学校3年
- 校長1名、教頭2名体制
- 校歌、校章、制服、体操服は現状のもの



▲ 焼火神社に到着！

公民館の取組

ふるさと子ども体験隊

焼火神社初参り

2月13日（土）晴天の中、子どもたち10名と保護者4名で焼火神社へ初参りに行きました。

焼火神社への登山道を子どもたちはどろんどろん登って行き、あつという間に社務所に到着しました。着いてからは、恒例のお菓子をかけた宝引き大会を行いました。「ヨイヤサーヨイヤサー」の掛け声と同時に、子どもも大人も一緒になって本気で紐を取りに行き、当たると大喜びしていました。

その後は本殿に行き実際に初参りを体験しました。波止地区と大山地区の方々も参加されており、子どもたちも一緒になって、祈願していただきました。

この時でないときできない体験をしたことで、子どもたちも西ノ島をさらに知ることが出来たと思います。快く受け入れてくださった松浦宮司さま、焼火神社の関係者の皆さま、そしてふるさと子ども体験隊に参加してくださった皆さまありがとうございました。

しまっこ広場

スポーツをしよう

2月27日（土）町民体育館で、スポーツ推進委員の方々とともに放課後子ども教室（しまっこ広場）を開催しました。

当日は3名のスポーツ推進委員と2名のしまっこボランティアさん、参加した23名の子どもたちとニュースポーツであるキンボールを楽しみました。

小学1年生から6年生までが参加しました。まずはボールに慣れるところから、一心不乱にみんなで大きなボールを追いかけてきました。競技の合間にスポーツ推進委員さんから丁寧なアドバイスもらい、子どもたちはみるみるうちに上達していききました。

会場は終始にぎやかなムードに包まれ、子どもたちは笑顔でいっぱいでした。子どもたちから「ルールも簡単で楽しかった。」「またやりたい」という

声が聞かれ、良い活動になったと思います。来年度も継続して活動していきたいと考えています。

◆お知らせ◆

4月24日（土）の10時ごろより、口村光房さんを講師に迎え、高崎山の自然観察会を行います。町民の皆さまの誰でも参加可能です。詳しくは、チラシを中央公民館、図書館等に配布していますのでそちらでご確認下さい。



▲ 自分の体より大きなボールを追いかけてきました。



▲ アドバイスやコツを真剣に聞く子どもたち